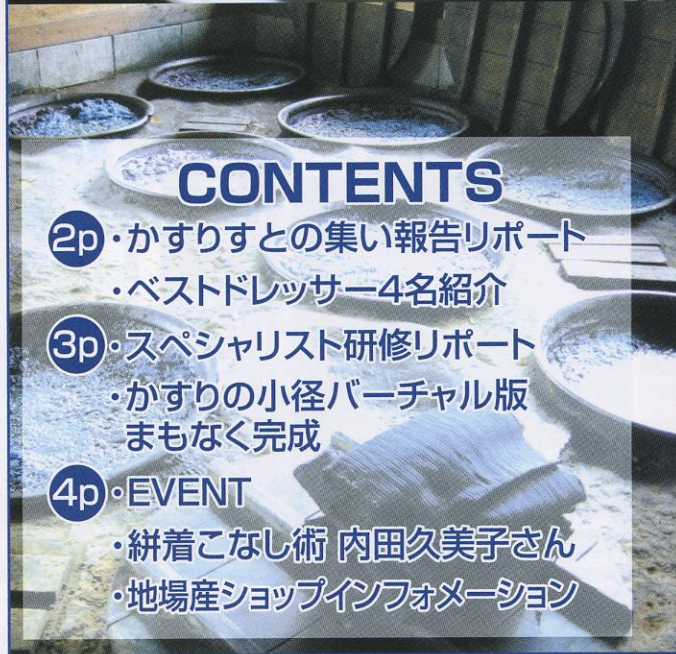
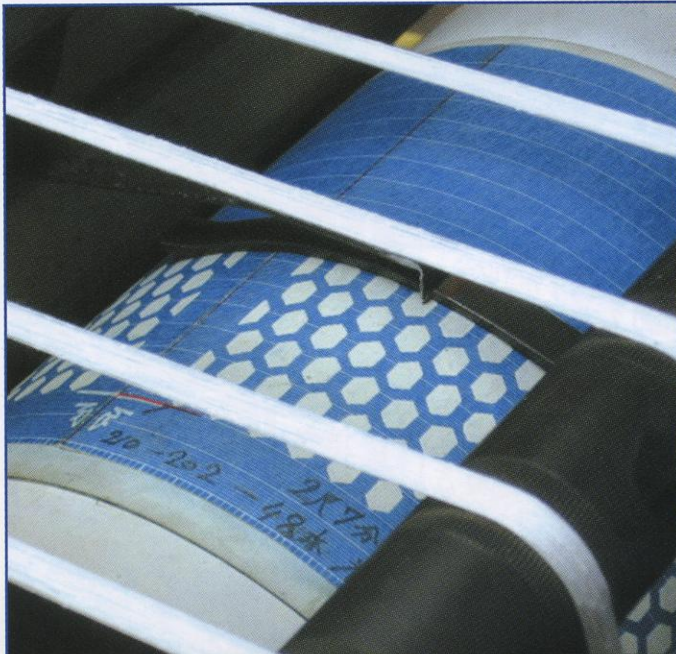




かすりすと

十八模様は久留米かすりのシンボルとしてあらゆるシーンに活用していきます。



CONTENTS

- 2p・かすりすとの集い報告レポート
・ベストドレッサー4名紹介
- 3p・スペシャリスト研修レポート
・かすりの小径バーチャル版
まもなく完成
- 4p・EVENT
・絣着こなし術 内田久美子さん
・地場産ショップインフォメーション



かすりの奥義を「括り」に見た

木綿糸を束ね、さらに幾筋もの束に規則正しく括り糸を仕掛けていく。絵糸書きで表されたかすりの設計図を見ながらかすりの緯糸は、その織り上がった時のイメージを描きながら微妙なニュアンスと長年の感で括られていく。表紙の写真は6月末にかすりスペシャリストさん達と研修のために訪れた筑後市にある桑野くくり屋さんの工房での括りの様子です。機械による括りとはいえ、その動きは手の延長のようなもの。この道50年の桑野好未さんは、絵糸書きされた設計図を見ながら、一見単純に見える作業の繰り返しに、ちよつとやさつとでは真似できないかすりの奥義を見た想いがしました。

久留米かすりを縁の下から支える「括り屋」、その繊細にして、緻密な手業、そして織り手の感性を表現する「括り」は久留米かすりには欠かせない存在です。

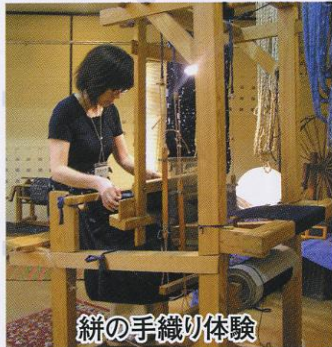
かすりすとの集い
レポート

第1回「かすりすとの集い」開催！

「かすりすとの集い」に出会えてよかった」7月15日(土)地場産くるめにて



地酒で乾杯



緋の手織り体験



馬田理事長のあいさつ



かすりすど企画委員の紹介



かすりすど名誉会長
江藤守國市長のあいさつ

「かすりすど」の初めての集まりが去る7月15日(土)、地場産くるめ2階ホールで開催されました。この3月から募集を始めた、かすりすとは現在510名の登録をいただいています。今回のかすりすとの集いにはその中から107名男性25名、女性82名のご参加をいただきました。参加者の中には遠く鹿児島、長崎からもご参加いただいたいました。冒頭、地場産くるめの馬田博理事長より挨拶があり、つづいてかすりすとの名誉会長でもある江藤守國久留米市長から、久留米の伝統産業である久留米緋、その応援団とも言うべき「かすりすど」の皆さんへの期待を込めてご挨拶をいただきました。

日本三大酒どころの久留米の地酒による乾杯のあと、特製のかすりの松花堂弁当を頂きながらの歓談は久留米ならではの「ほとめき」ですね。今回のメインのイベントでもあるファッションショーは参加者からベストドレッサーを決めようというものです。各テーブル毎に参加者の緋の着物・洋服・バッグなど個性豊かなファッションを、司会がパフォーマンスを交えて紹介し、会場は大いに盛り上がりましました。皆さんの色んな柄・色の緋を見て、やはり緋は年齢や性別に関係なく着られる服だと改めて感じさせられました。つづいて思い出のかすり展に出品頂いた3名の方へのインタビュー、そして「バーチャル版かすりの小径」を映像で紹介しました。また、かすりすどのお世話役や案内役として研修を受けて頂いたスペシャリストの皆さんを紹介し、皆さんに抱負を述べて頂きました。宴もたけなわになった頃、参加者の投票で選ばれた本日のベストドレッサー賞が発表され、記念品が渡されました。



司会の金子あき子さん
(美川さゆりのマネ)



緋ベストドレッサー賞決定



思い出の緋インタビュー



バーチャル「かすりの小径」紹介



▼右から
松藤浩子さん(久留米市)
河内英一さん(長崎市)
鳥巢陽子さん(大野城市)
曾根正臣さん(広川町)



緋ベストドレッサーの皆さん

緋ベストドレッサー賞決定
それぞれにご自分の思い入れのある緋を自信を持って身につけておられ、とてもお似合いました。



井村敏代さん

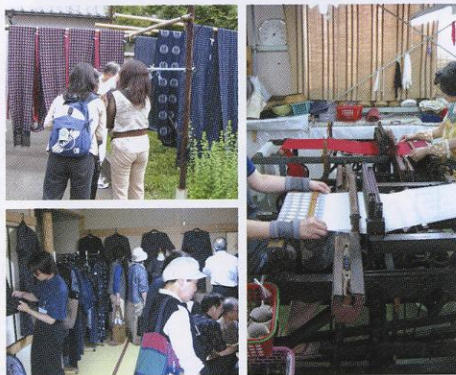


木下繁代さん



姫野八重子さん

「思ひ出の緋」展
今回は3人の方が思い出の緋をご持参いただき、その思い出と共にご紹介頂きました。



創刊号で紹介し募集した、かすりスぺシヤリスト第1期生の研修会が梅雨の晴れ間の6月28日・29日の2日間行われました。久留米市内をはじめ福岡市内や佐賀から13名参加されました。

初日は10時から緋の概要説明があり、11時から久留米市田主丸町在住の緋作家・松枝哲也さんによる「久留米緋の歴史とその背景」についての講義がありました。講義では、8世紀奈良時代に中国から日本に入ってきた木綿の歴史、藍の歴史など緋にまつわるお話が興味深く話されました。

かすりすと研修日記

午後からは「かすりの小径」を歩いてみましょう、と言うことで寺町から日吉町にかけて約1キロの道のりを歩きました。最初に立ち寄ったのは井上伝のお墓がある徳雲寺。そこから寺町通りをゆつくりお寺ウ

ればとイメージを膨らましていました。2日目は、筑後市と広川町にある織元さんと括り屋さんの見学です。午前中は筑後市の池田緋工房に手織りの現場を見せて頂きました。次に同じ筑後市にあ

緋の奥深さを感じていらつしやるようでした。午後からは、広川町にある経糸専門のくくり屋・坂本くくり屋を見学。経糸とはまた違う括り作業でこちらは全自動で括りがされていて、少し近代化した緋の風景です。このあと広川町にある野村織物、山村健藍染緋工房を見学、藍染のある作業場や自宅兼ギャラリーに案内して頂

き緋の反物やキモノを見て頂きました。生産地の現場は普段ではなかなか見られないものばかりでしたが、括り屋さんや織元さんのご協力で無事2日間の研修が終了しました。お疲れさまでした。



かすりの小径

久留米 緋

200年の伝統と歴史
久留米かすり

この小径は、久留米の原風景を散策してみませんか。

はかしくも心地よい久留米の原風景を散策してみませんか。

START

この小径は、久留米の原風景を散策してみませんか。

はかしくも心地よい久留米の原風景を散策してみませんか。

バーチャル映像 (試作品)

「かすりの小径」公開中

バーチャル版「かすりの小径」はもうご覧になりましたか。久留米緋創始者井上伝のお墓、久留米緋産業の開拓者 国武喜次郎が興した国武合名会社の煉瓦造りの倉庫など、久留米の原風景を感じさせる小径です。今秋の11月中旬この小径を歩こうというかすりすとイベント第2弾「かすりの小径ウォーク」を企画中です。詳細は次号にてお知らせいたします、お楽しみに。

バーチャルかすりの小径: <http://pixelwork.main.jp/kasuri/>

